

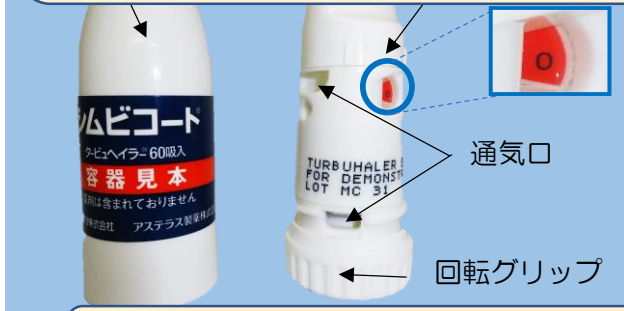
おくすりの名前

吸入回数

(手技確認における8つのポイント※)

※(一社)吸入療法アカデミー方式

- ①デバイス保持(垂直) ②カウンター指差し確認 ③通気口の位置確認 ④ボタン・レバー・カバー操作は最後までしっかり行き指を離す ⑤口角を閉じる ⑥吸い方(強く深く:掃除機のように) ⑦息止め(指折り5つ) ⑧うがいは必ず行う(ガラガラ、ブクブク各3回)



ですので、次回からは新しい吸入器を使用して下さい

- ・カウンターが0になっても回転グリップの操作はできますが、薬剤は残っていません
- ・吸入器を振ると「カサカサ」音がするのは乾燥剤の音です

(毎日の操作)

(注意点)

《吸入映像》※1



3分10秒)



(約2分40秒)

- ・吸入口を持たずに、本体中央部を持ち、回転グリップを操作するよう指導する
- ・セット後は、吸入器を傾けると薬剤がこぼれることがあるので振ったり、逆さにしない

ポイント

<p>① 薬剤の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 開封時は、空回しを(3回)行う □ 薬剤セット時の操作は吸入器を垂直に持ち行う □ キャップを回して外す □ カウンターで残量確認する □ 回転グリップを右に止まるまで回す (A) □ 止まったら左にカチッと音がするまで戻す (B) 		<ul style="list-style-type: none"> ・垂直に持ち、しっかり操作しないと正確な1回分量がセットされない ・続けて2回回転グリップを操作しても1回分しかセットされず薬が無駄になる
<p>② 息吐き</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 無理のない程度に息を吐き一旦止める(吸入口には息を吹きかけない) 		<ul style="list-style-type: none"> ・息吐きをしないとしっかり吸えない
<p>③ 吸入</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 回転グリップを持ち、吸入口をくわえ、口角を閉じ、強く深く、息を最後まで吸い込む(通気口をふさがない) 		<ul style="list-style-type: none"> ・息がもれないように口角を閉じる ・掃除機でかき集めるイメージで吸う
<p>④ 息止め</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 吸入器から口を離し、口を閉じ、指折り5つ息を止める(無理のない程度で良い) 		<ul style="list-style-type: none"> ・肺により多くの薬を定着させるため
<p>⑤ 息吐き</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 鼻からゆっくりと息を吐く 		<ul style="list-style-type: none"> ・口から吐くと速くなることもある
<p>吸入口に息を吹きかけないようにする意味も込めて鼻から抜くことが良い ステロイドに限っては鼻腔内における抗炎症作用が期待できるとの報告がある 吸入後に鼻から息を吐きだすことで気管支などに定着できなかった薬が鼻の中に定着する その為、吸入後に鼻から息を吐きだすことでアレルギー性鼻炎や好酸球性副鼻腔炎に効果が期待できる</p>		
<p>*複数回吸入する場合は①~⑤を繰り返す</p>		
<p>⑥ 後片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> □ キャップをしっかり閉じる 		<ul style="list-style-type: none"> ・キャップを閉じる前に吸入口を拭く
<p>キャップをする際に回転グリップを持つと、半回転などの誤作動を起しやすいので注意する</p>		
<p>⑦ うがい</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 吸入後はガラガラうがい、ブクブクうがいを各3回ずつ行う 		<ul style="list-style-type: none"> ・口腔内及び咽頭についた薬を洗い流す

※1 患者吸入指導テキスト(大林浩幸著、協企企画)より著者の許可を得て使用

吸入ステロイドは口腔内カンジダや嚔声などの副作用を防止するため、吸入後すぐにうがいをする
それ以外の吸入薬も統一化を図るため、うがいを行うようにする

床喫調剤薬向名(薬剤研石) 年 月 日